

## 波間に漂う「察する心」と「ハッピーフラワー」

副校長 中川 鎮孝

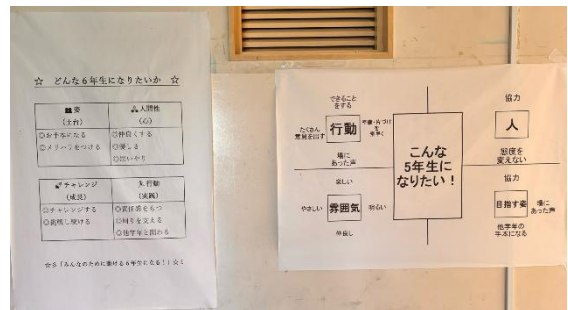
あじさいの花が色づき始め、しっとりとした雨が木々の緑を濃くする季節となりました。副校長として着任し、早くも2ヶ月が過ぎようとしています。

さて、私の趣味はサーフィンですが、サーフィンをされない方が陸からその姿を見ると、波間にぶかぶかと浮かんでいる私は、きっと「雨に打たれるただのとど」のように見えていることでしょう。しかし、この静止している時間、海の上では非常に高度な「察する心」が働いています。サーフィンには「一つの波には一人だけ」というルールがありますが、沖では言葉を交わさずとも、お互いを静かに観察しています。「あの人は今、波に乗る準備ができていな」と、相手の動きを認め、瞬時に判断します。たとえ一言も話さなくても、相手を尊重し、スッと波を譲り合う。この無言の調和こそが、海の上での最も美しいマナーだと私は感じています。



こうした「察する心」の大切さを、先日の行事でも強く感じました。5月21、22日、私は4年生の野島宿泊体験学習に同行いたしました。4年生は「かがやくハッピーフラワー 安全に協力して 野島の思い出を作ろう!」というスローガンを掲げ、2日間を過ごしました。自分だけが楽しむのではなく、仲間の様子を察し、声をかけ合い、安全に協力しようとする姿は、まさに野島の地にたくさんの「ハッピーフラワー」を咲かせているようでした。

学校生活に慣れが出てくる6月は、自分の個性が強くなる分、時として「我」がぶつかり合う場面も増えてきます。現在、高学年の教室前には、年度初めに話し合われた「理想の姿」が掲示されています(写真参照)。6年生の「支える」、5年生の「協力」、これらを実現するために必要なもの、野島で4年生が見せてくれたような「相手を察する力」ではないでしょうか。



「自分が、自分が」と主張しすぎるのを少しこらえて、一呼吸おいて隣の友だちを見てみる。本校の教育目標である「スマイル」と「チャレンジ」。自分の思いを大切にしながら、相手のリズムを尊重し、一步譲る。これは子供たちにとって勇気のいる「心のチャレンジ」ですが、その折り合いをつけた先にこそ、全員の本物の「スマイル」が広がります。そして、こうして一人ひとりが相手を思いやり、心を寄せ合うことで、本校の目標である「みんなつながる南台」の姿が、日々の学校生活の中で少しずつ形になっていくのではないのでしょうか。

雨の日、静かに雨音に耳を傾けるように、友だちの心のリズムにもそっと耳を傾けられる。そんな余裕を持って、私たち教職員も子供たち一人ひとりの成長に寄り添ってまいります。今月もどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamidai/>

児童の様子を本校ホームページに掲載しています。随時更新してまいりますので、ご覧ください! TEL842-1478~9

